

東日本大震災・被災地ドキュメンタリー上映会・祈り会
East Japan Earthquake documentary movie

心ひとつに

～被災地は今～

2012.11.17(土)

午後1時30分開場 午後2時～4時

会場：日本基督教団 **名古屋中央教会**

名古屋市東区久屋町8-6 TEL.052-971-9012 ※栄・オアシス21のすぐ南
地下鉄 東山線・名城線「栄」下車(5番出口すぐ)

入場無料
(座上献金あり)

キム・セジュン

今こそ、映像を通して
被災地の現状を知り心一つにして
被災地のために祈ろう!!

韓国人のドキュメンタリー監督キム・セジュン氏を
お迎えし、映像を通して被災地の現状を知り
また被災地のために祈る特別な一日です。
名古屋の中心から被災地に祈りの声を届けよう。
どうぞお出かけ下さい。

ごあいさつ：キム・セジュン(ドキュメンタリー監督)
音楽ゲスト：神山 みさ(ゴスペルフォークシンガー)
司会・進行：須貝 まい子

神山みさ

主催：被災地ドキュメンタリー上映会 実行委員会 お問合せ：090-8475-5510(近藤) 090-7307-4512(今村)

後援：名古屋キリスト教協議会、日本国際飢餓対策機構、ホープ・インターナショナル開発機構、インターナショナルVIPクラブ名古屋、あいちゴスペルネット

韓国人のドキュメンタリー監督キム・セジュン氏をお迎えし
映像を通して被災地の現状を知り
また被災地のために祈る特別な一日です。
名古屋の中心から被災地に祈りの声を届けよう！



キム・セジュン

ドキュメンタリー映画監督

韓国ドキュメンタリー制作会社(East Wind)にて7年間映像制作に携わる。L.A.で開催されたPPFFドキュメンタリー部門1位受賞。2011年3月8日から3月12日までの予定で来日。

3月11日、人生初めての地震を経験しカメラを回し始める。

帰国し編集、インターネットを通して無料放送し、世界に日本の現状を伝えボランティアと献金を募る。東北を撮影し編集は韓国でするスタイルを数回繰り返すが、2011年4月末、日本に引越す。現在、東北ドキュメンタリー(20分前後)8本、インターネット震災復興番組「しんちゃんねる」7本、CGNTV提供毎週放送「Weekly JAPAN」4本を制作。 <http://shinco.tv/>



神山 みさ

ゴスペル・フォーク・シンガー

栃木県宇都宮市出身。牧師家庭に生まれ育ち小さな頃から賛美歌に触れて育つ。

98年モスバーガーX'mas song contestにてグランプリ受賞。その後上京しACT Against Aidsへの参加やスペイン映画「あなたになら言える秘密のこと」の挿入歌を歌う。

114日間毎日路上ライブをやり遂げ、テレビ朝日系列の番組では人気投票全国1位を獲得。

2010年には活動10周年記念したベストアルバムをリリース。

昨年は「Live for someone」をリリース。被災地支援をしつつ精力的に活動している。

以下は2012年3月18日に
東京の富士見丘教会で行われた
同上映会・祈り会の紹介記事です。

(クリスチャン・トゥディHPより要約)

3月18日、富士見丘教会(東京都世田谷区)でドキュメンタリー監督キム・セジュン氏のドキュメンタリー上映会および被災地への祈り会が開催された。

韓国のドキュメンタリー会社にいたキム・セジュン氏は、日本で映像の勉強をするために昨年3月8日に来日した。その3日後の11日に震災が起こったことから「自分ができることを通して何かをしよう」との思いで被災地のドキュメンタリー作品を制作してきた。

上映会ではゴスペルシンガーの神山みさ氏が賛美を行った。神山氏は、震災直後いち早く福島県いわき市へボランティアに出向いて支援活動を行ってきた経験を振り返り「色々な人と出会う中で、震災で心が暗闇に包まれた問題は、私たち一人一人の問題だと思いました。その中で希望の光を見出して、光の中を歩むことができるように、光の中を歩むときに、孤独ではなく本当に神様が歩いて下さる確信がもてるように願っています。弱い何もできない自分を認めて、神様に力を求めるときに、神様の通りの良き管となることができます。神様を知らず、祈ることができない人たちのために、私たちが代わりに祈ることができたらと思います」と伝え、賛美を引導した。

上映会に際してキム・セジュン氏は、「日本に来たきっかけは、震災のドキュメンタリーを撮るためではなく、早く韓国のクリスチャン関係の仕事から逃がりたいというまるでヨナのような気持ちからでした。ただ映像の勉強をもっとしたいという気持ちで来ました」と述べた。しかし日本に来た直後に震災が生じ、震災のドキュメンタリーを制作するのが使命であると感じるようになったという。セジュン氏は、「私の心、自分のそのままのことを皆さんと分かち合っ、この作品で一緒に泣いて、笑って一緒に祈りたいと思います。自分の弱さをそのまま伝えられたらと思います」と述べた。

上映会では編集をしていない被災地のそのままの映像が披露された。宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市、山田町における震災後の力強い福音伝道の様子、被災地で福音を伝える牧師の思いや、福島県いわき市のグローバルミッションセンターに自殺願望のある少年が訪れ救われた話、その他実際に被災地の人々がイエスを信じるに至った様子などが映像を通して伝えられた。

上映会後、被災地を覚えて祈祷会が行われた。一人一人が自分の心を神様に委ね、聖霊に満たされるため、また被災地の復興と同時に教会が立てられ、主によって強められていくため、被災地の人々が希望を持って生きていくことができるように、心を合わせて祈る時間がもたれた。